

# 各検討会からの課題(R5.11.21 開催分まとめ)

資料1

相談支援検討会	就労検討会	発達障害者支援検討会
<p><b>人員不足</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者数に対して相談支援専門員数が少ない</li> <li>・県外の人材派遣は高額であり経営に影響する</li> <li>・別業種への転職(給与の低さか?)</li> <li>・中堅職員で退職 → 組織に影響</li> </ul>	<p><b>人材確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・求人を出しても来ない</li> <li>・人材定着が困難(給与の低さ、早期に退職)</li> </ul> <p><b>人材育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模の事業所が多く、送迎、利用者対応に追われ人材育成のシステム化ができていない (スキルアップ、キャリアプラン、キャリアパス)</li> <li>・研修計画、OJT 等がまとまっていない</li> </ul>	<p><b>支援者の理解促進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援者が学べる場所、相談できる場所がない</li> <li>・支援者として「聴くスキル」を身につける場所がない</li> <li>・地域活動支援センターの連携や情報交換がない</li> </ul>
<p><b>送迎</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動手段がない</li> <li>・送迎エリア</li> <li>・体験利用時には送迎してもらえない</li> </ul>	<p><b>送迎</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎車の運転手不足</li> <li>・移動手段がなく利用につながらない (移動手段…徒歩、自転車)</li> </ul>	<p><b>送迎</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動手段がなく地域活動支援センターにつながらない、つながりにくい (移動手段=徒歩、自転車、電車)</li> </ul>
	<p><b>制度・報酬</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用希望→開始までに時間がかかり過ぎる (新規=約1ヶ月)</li> <li>・就労以外の事業所以外の場での生活支援等の支援に報酬、加算がない</li> </ul>	
		<p><b>居場所の確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労支援事業所には継続して通所できない</li> <li>・安心して居られる場所がない (個別対応、日時が不規則でよい、自由に利用し過ごせる、話を聞いてくれる場所や人がいる)</li> <li>・手続きのハードルが高い(時間がかかる、手続き)</li> </ul>

相談支援検討会	就労検討会	発達障害者支援検討会
<p><b>8050 問題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成年後見制度の利用につながらない</li> <li>・相続など専門的な相談には対処できない</li> </ul>		
<p><b>サービス事業所</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重心児、者の受け入れ生活介護事業所が少ない</li> </ul>		
<p><b>駐車場</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問サービス事業所の課題</li> </ul>		
<p><b>相談支援体制</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三層の相談支援体制それぞれの人員不足</li> <li>・報酬、加算対象外の多種多様支援の実施</li> <li>・調査業務委託は継続してほしい</li> <li>・新規サービス開始時あるいは事業所変更時にトラブル発生率が高い</li> <li>・児→者→高齢者のライフステージにおける関与スタッフが変わる為、連携や仕組みが必要</li> </ul>		

## 各検討会からの課題に対する提案(R5.11.21 開催分まとめ)

	課題	提案
1	人員不足 人材確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉職場の魅力を伝える</li> <li>・退職理由に対するアプローチ(業務の困難さ、知識不足、人間関係、業務量等)</li> <li>○ICT 導入による業務の簡素化</li> <li>○人材確保に向けて先進地視察やセミナー</li> <li>○高齢者分野の介護カフェを障害者分野で開催</li> <li>・支援員の登録制(シルバー人材センター)</li> <li>・求人募集の際の必要経費の補助</li> <li>・事業所の離職率調査</li> <li>・一般支援員向けの意識調査(サビ管には H30 年に済)</li> <li>・就労支援事業所を知ってもらう(SNS の活用)</li> <li>・学生向けのボランティア募集</li> </ul>
2	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質向上に向けた研修の継続</li> </ul>
3	支援者の理解促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域活動支援センターの情報交換を目的とした交流会の企画</li> <li>・各センターが連携し、対人技術や支援方法等を検討しあえる機会をつくる (困りごとの議論にとどまらず、個を中心にした話題提供)</li> </ul>
4	送迎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デマンド型乗合タクシー</li> <li>・公共交通機関の利用訓練</li> <li>・事業所同士の乗り合い</li> <li>・周遊バスの運行</li> </ul>
5	駐車場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・警察署で駐車許可証、対象外の区域</li> <li>・空き家、近所の使っていないスペースの利用相談</li> </ul>
6	8050 問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成年後見について支援者、当事者、家族の知識を得る →啓発講演会(セミナー)の周知、参加</li> </ul>
7	相談支援体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討を通して課題抽出、支援技術の向上を図る (地域福祉コーディネーターや生活支援ボランティアの活用等)</li> <li>・引継ぎ時のルールや共通の情報シートの作成(ライフステージ、事業所変更)</li> </ul>

# 障害者相談センターの実績報告及び課題(R5.5.29 開催分まとめ)

東部	西部
<p><b>社会資源</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉サービス事業所が少なく、利用調整に時間がかかる</li> <li>・相談支援事業所が少なく、依頼先が限定される●</li> </ul>	<p><b>社会資源</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援事業所がケースオーバーで新規ケースの受け入れ困難●</li> <li>・児→者 サービス提供時間に空白が生じる(共働き世帯)</li> </ul>
<p><b>傾向</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多問題世帯、長期にわたって複数の機関と支援を継続するケース増●</li> </ul>	<p><b>傾向</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早くサービス利用をしたいからとセルフプラン増(障害児)</li> <li>・引きこもりのケースは家族の高齢化により切羽詰まった相談増</li> <li>・不登校ケースは児童の課題以外の家族の養育力の低下、家族支援が要</li> <li>・障害特性や課題により賃貸物件が少ない</li> </ul>
南部	北部
<p><b>社会資源</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援事業所がケースオーバーで新規ケースの受け入れ困難●</li> <li>・潮江、棧橋側は交通手段として路面電車やバスがあるが、海側はバスのみ</li> </ul>	<p><b>社会資源</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材不足(相談支援事業所、居宅介護、同行援護、移動支援)●</li> </ul>
<p><b>傾向</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通手段が乏しく送迎対応がないとサービス利用は困難</li> </ul>	<p><b>傾向</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害児の相談増</li> <li>・障害種別は発達障害を含む精神障害者が4割</li> <li>・児童、高齢者虐待、配偶者からのDV等が増</li> <li>・包括的に多機関で連携し、伴走的な支援をしているが解決困難なことが多い →支援期間が長期化、職員の負担増●</li> </ul>

# 地域(東西南北)の特徴(R5.5.29 開催分まとめ)

## 東部

- ・高知市内より市外への事業所利用の選択肢が広がる
- ・共同生活援助が増
- ・送迎があることでサービス利用につながる
- ・ファミリー向けのマンションやアパートが多く、転入転出が多い  
    ➡ 自助グループ、集いの場が少ない
- ・北街は生活保護世帯が多い
- ・葛島から東部方面、三里地区には子ども食堂の数が少ない

## 西部

- ・高知市における人口比率が高い
- ・単身アパートや団地が多く、住宅地が密集している
- ・特別支援学校、障害診断を受ける医療機関がある
- ・高齢化が進み、8050 問題の相談や支援者の気づきがある
- ・地域サロンや子ども食堂がある
- ・公共交通機関が充実している
- ・障害児通所支援事業所が増

## 南部

- ・潮江、棧橋地域は路面電車や路線バスの本数が多い
- ・海側は路線バス以外の公共交通機関がない

## 北部

- ・エリアの多くが市街地であり、商業施設や公共交通機関等が比較的豊富
- ・入院可能な精神科医療機関の約半数がこのエリアにある
- ・地域活動支援センター、就労継続支援事業所が少なく日中活動の確保困難
- ・盲学校やルミエールサロン 視覚障害者の支援拠点がある

※法人内には

権利擁護中核機関、生活福祉資金貸付事業、生活困窮事業の個別支援窓口  
地域福祉コーディネーター、ボランティアセンター、障害者福祉センター社会参加促進事業等、連携を図りやすい

# 基幹相談支援センター実績報告(R5.5.29 開催分まとめ)

## ❖職員体制

職種	員数
室長(PT)	1
保健師	2
社会福祉士	2
精神保健福祉士	1
視覚障害者生活訓練	1.5
その他	2
計	9.5

課題に対して～いかに取り組み・展開していくか～ 自立支援協議会で検討

- 人材確保・育成・定着について
- 移動手段、送迎問題
- 駐車場
- 支援者の理解促進(発達障害)
- 8050 問題
- 困難ケースについて(長期化、複雑化、多様化)
- 相談支援三層体制について

↑

高知市行政として検討されているものはあるか？

## ❖機能

### ① 相談支援体制の強化(人材育成・困難ケース支援)

事務連絡会

ケース会(ケース支援)

階層別研修

基幹職員のスキルアップ研修

### ② 地域ネットワークの構築

地域別社会資源の把握

他分野・多職種を対象としたネットワーク会議

### ③ 自立支援協議会・各検討会の事務局

各検討会、自立支援協議会事務局

### ④ 権利擁護/虐待防止センター

### ⑤ 地域移行・地域定着

### ⑥ その他